

NEWS LETTER

2014. 2月号

「宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部」の“今”を伝えます。



NewsLetter 2014年2月号 vol.41
2014年2月28日発行

Editor 永田久美子、金澤英樹(本学職員)
Art Director 渡邊哲意(本学准教授)、芦谷耕平(本学講師)
Designer 小野寺真央(イラストレーション領域3年)
松波恵(イラストレーション領域3年)

東京新宿キャンパス
東京メディア・コンテンツ学部|大学院
〒160-0023 東京都新宿区西新宿七丁目11番1号
TEL:03-3367-3411
FAX:03-3367-6761
E-Mail:tokyo@takara-univ.ac.jp



表紙写真
編集者講習会

HOT TOPICS

プロの編集者による
編集者講習会を開催!

マンガコースの有志の学生が
「コミティア107」で同人誌を販売!

「満天の星展III」に北見隆教授が出演

「奇想の少女 或いは少年」展に北見教授が出品

「ネコのいるモノガタリ展」に卒業生の夢島スイさんが参加

大学院公聴会が開催
お茶の授業で裏千家の免状を授与

進学相談会
ギフトショー

2013年度 卒業制作展のお知らせ

授業紹介

アニメ制作Ⅱ

教員紹介

市野治美専任講師(マンガ領域)

学生紹介

アニメーション領域 中込健人さん

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

今年で3回目となるマンガ領域主催の「編集者講評会」が、1月22日〜23日の2日間に行われ、学内で開催されました。この編集者講評会は、学生がプロのマンガ編集者から作品の講評を直接受けることができる大変貴重な場となっています。

今年は、『週刊少年サンデー』（小学館）、『週刊少年マガジン』（講談社）、『ジャンプSQ.』（集英社）、『Gファンタジー』（スクウェア・エニックス）、『花とゆめ』（白泉社）、『月刊ヒーローズ』（小学館クリエイティブ）、『まんがタイムきらら』（芳文社）、『ウイングス』（新書館）、『コミックバース』（幻冬舎）、『onBLUE』（祥伝社）の10社で活躍する編集者の皆さんが来校され、学生たちの作品を講評していただきました。

学生たちの熱気に応え、真剣勝負の講評会に！
「完成原稿のみを講評する」という条件のもと、参加したのは、自らの完成作品を手にした約50人の学生たち。日ごろからプロの漫画家の作品を目にしている編集者

の皆さんからは、「自分が何を伝えたいかを意識することは作品を描く上で非常に重要だが、独りよがりになりがちで、相手（読者）がいないよ」「相手（読者）がいるということをもっと意識して描きなさい」といった厳しい言葉が飛び交っていました。また、キャラクターの細かい設定についても、作品の良い点、足りない点をプロの視点で見抜き、「こうすればさらによくなると思う」と指摘していました。参加した学生たちは、自身のレベルアップのために、一言一句を聞き漏らすまいと、そんな学生の熱意に改めて真剣なまなざしでアドバイスをする編集者の皆さんも真剣勝負で、熱く充実した2日間となりました。

竹内一郎教授に聞きました！
この編集者講評会は今年で3回目になりますが、年を追うごとに充実してきていますね。今回は例年に比べ、プロデビューを本気で目指している学生の参加が多く、会場は緊張感とすごい熱気に包まれていました。

プロの編集者による 編集者講評会を開催！



マンガ領域の有志の学生が「コミティア107」で同人誌を販売!



COMITIA107 2014.02.02 TOKYO BIGSIGHT



今回は3,656のサークルと個人が参加。本学マンガ領域からは在学生や卒業生たちが多数参加。公式カタログ『ティアスマガジン』でインタビュー記事に取り上げられた、本学の上原愛弓助手(ペンネーム・川端新)もブースを出展し、新作の作品を販売しました。

「COMITIA」は1984年から続く、「自主制作(オリジナル)」のジャンルに限定した同人誌即売会です。年4回の開催で、各回3,000を超えるサークル・個人が出展し、会場は毎回大変な賑わいを見せています。

マンガ領域の学生有志が集まり、2月2日、東京ビッグサイト(江東区有明)で開催されたイベント「COMITIA(コミティア)107」に参加しました。

出展者 町野さんに聞きました!

自作したマンガを同人誌にして販売しました。何よりうれしかったのは、紆余曲折があってやっと完成した本を興味深そうに手に取ってもらったり、「この絵、このお話が好きです」という言葉をいただいたとき。作品を作る経験をたくさん積めるこのイベントは、ほかでは味わえないものがあります。

町野仁美さん(山村学園高等学校卒業)

展示会REPORT

- ▼満天の星展 III
- ▼奇想の少女 或いは少年
- ▼ネコのいるモノガタリ展



「奇想の少女 或いは少年」展に北見隆教授が出展

銀座の画廊 スパンアートギャラリーにおいて、少年少女をテーマとしたグループ展が開催され、北見教授の作品が出品されました（期間：1月21日～2月1日）。会場には、東逸子、宇野亜喜良、建石修志など時代を代表する9人の作家による幻想的な少年少女のアート世界が繰り広げられていました。



「ネコのいるモノガタリ展」に卒業生の夢島スイさんが参加

本校卒業生の夢島スイさんが、東京 恵比寿駅近くのギャラリーまあるにおいて、「ネコのいるモノガタリ展」に参加しました（期間：2月4日～16日）。今回の展示では、身近にいるネコをテーマに、モノガタリを作家ごとに展開。夢島さんは、「ネコをめぐるモノガタリを本からのびるツタのイメージで描いた」とのことです。



「満天の星展 III」に北見隆教授が出展

東日本大震災支援企画の「満天の星展 III」に、本学イラストレーション領域の北見隆教授が作品を出展しました（期間：1月6日～17日）。これは、あらかわ画廊（中央区京橋）が主催した、売り上げの一部を東日本大震災の支援金とするグループ展です。北見教授はこれまでもこうした企画に精力的に参加しています。



ユニークな研究論文が続々！ 大学院公聴会

大学院 メディア・造形研究科修士課程の公聴会が、2月8日に開催され、院生が自分の研究分野について発表しました。この公聴会は、学位認定を評価する重要な場。緊張感漂う中、総勢11人が、メディアコンテンツ分野におけるユニークな発表を行いました。



◆中里智美さん（東京成徳大学高校出身）による「キャラクター・コンテンツにおけるまんがの役割」カードゲーム『花鳥風月』を例に――
中里さんは修士1年時に歌舞伎町キャラクターカードゲームを制作。このメディア展開のまとめとして制作した作品を例に、「まんが」のメディアにおける役割について述べました。このカードゲームのメディア展開についてはこれまで複数の学術学会にて発表しているだけあって、内容もしっかりとされており、十分に読み応えのある内容で、公聴会に参加した先生方からも高評価でした。

◆王衛琦さんによる「二次創作行為及び影響に関する研究」
同人誌などの「二次創作」行為について、日本と中国の制作行為を基点に「東方PROJECT」「ボーカロイド」「艦隊これくしょん」艦これ」の作品を解析。二次創作の本質、存在意義、広がる原因、原作に対する影響、今後の展望について述べています。海外における日本作品の二次創作の現状など、大変興味深い内容でした。

お茶の授業で 裏千家の許状資格 「初級」を授与



本学学生は、「芸術教養Ⅱ」の授業で茶道（裏千家）について学びます。ここでは実技と講義を通じて、譲り合いや思いやる心、感謝し、仕え合う心を学んでおり、特に女子学生に大変人気があります。この授業の成績優秀者3名が、本学で初めて裏千家茶道「初級」の許状資格を授与されました（2013年11月1日）。
許状資格を授与された学生は「茶道が好きなので、この資格をいただけで本当にうれしい」「生活の中でも茶道を生かしていきたい」と喜び合っていました。

岩田明子講師に聞きました！
この授業では五感で季節を感じることも他者を思う心を重視しています。季節の花を見て、湯の沸く音や柄杓のカツンという音に耳を傾け、お香、お抹茶の香りを楽しむ……。こうして五感を常に意識することが、この大学の学生が目指すクリエイティブな仕事にも必ず好影響を及ぼすと考えています。今回資格を授与されたことで、就職時の履歴書にも書くことができますし、今後の自信につながっていくと信じています。

2014年 第4回 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部

卒業制作展

COMIC ILLUSTRATION GAME ANIMATION MOVIE



2014.3.8(土) 10:00～19:00 ▶ 3.9(日) 10:00～17:00

宝塚大学 新宿キャンパス [入場無料] <http://kwf.digi2.jp/tzu/> zukasotsu2014

ご来場をお待ちしています!

2013年度 卒業制作展のお知らせ

大学生活の集大成となる2013年度 卒業制作展を、3月8～9日の2日間にわたり学内で開催します。昨年は、映画、マンガ、アニメーション、ゲーム、イラストレーションというコースの垣根を超えて卒業制作に取り組む学生たちの姿も多く見られました。

近年、ネット環境の普及やデジタル技術の発達、またタブレット端末などの機器の普及により、作品の作り方や見せ方、制作する側と作品を見る側の関係が大きく変わりつつあります。卒業制作展では、このように常に変化し続けるメディア・コンテンツ業界に対応した意欲的な作品を数多く展示いたします。ぜひ会場に足をお運びください(入場無料)。

第4回 宝塚大学 東京メディア・コンテンツ学部「卒業制作展」
日時：3月8日(土) 10:00～19:00 3月9日(日) 10:00～17:00
場所：宝塚大学東京新宿キャンパス(東京都新宿区西新宿7丁目11番1号)

- ◆映画コース
映像作品上映、シナリオ及び撮影セットの展示
- ◆マンガコース
オリジナルマンガ・同人誌及び生原稿の展示
- ◆アニメーションコース
絵コンテや設定資料の展示、映像作品の上映
- ◆ゲームコース
iPhone・iPadアプリ、動画、PCゲームなどの展示
- ◆イラストレーションコース
イラストレーション及び立体作品の展示

※当日は学生の作品・グッズの販売も行います。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

ギフトショー春2014で 卒業生のブースを訪問

“日本最大のパーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市”といわれる「第77回東京インターナショナル・ギフトショー春2014」が東京ビッグサイトにて開催されました(期間：2月5～7日)。会場で出展していた宝塚造形芸術大学(現 宝塚大学 宝塚キャンパス)の卒業生である(株)水鳥工業の佐藤文美さんのブースを、イラストレーション領域の3年生3名、大学院1年生1名の計4名が訪問しました。

渡邊哲准教授に聞きました!

佐藤さんからは商品の解説のほか、デザイン展開について作家とのコラボレーションの例や、季節に合わせた展示ディスプレイについて説明してもらいました。大学院生はディスプレイデザインの研究しており、様々な展示ブースのデザインについて真剣にメモを取っていました。

佐藤文美さんプロフィール
株式会社水鳥工業 企画・広報
2002年宝塚造形芸術大学造形学部産業デザイン学科卒業。企画・デザインを担当した静岡産ひのきの下駄が「第70回東京インターナショナル・ギフトショー」の新製品コンテストで大賞を受賞。現在は商品の企画・デザインだけでなく、営業・広報・ウェブデザイン・企業ブランディングまで幅広い業務を担当。
◆株式会社水鳥工業(静岡県静岡市)ホームページ <http://www.geta.co.jp/>



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

マンガ領域 市野治美 専任講師



よく「これからは何が当たりですか？」と聞かれますが、この質問に対する答えはどこにもなく、自分自身で探すしかありません。今後求められるのは、柔軟に物事をとらえ、常識にとらわれず、自

私はマンガの世界はこの先5年間で大きく変わると見えています。雑誌などの紙媒体がすぐになくなると思いませんが、これまでの常識だったやり方やシステムを踏襲しては決して生き残れない、と強烈に危機感を覚えています。

日本では現在、コミック雑誌だけで月に約480冊が出版され、うち18禁を除くと約150冊。これらに目を通して「業界の今」を知ることが大切です。私はできる限り編集部に足を運び、編集者にヒアリングしています。そこで感じるのは、今後マンガ家を目指す人は、「絵がうまい」が必要条件ではないということ。絵がうまい人はたくさんいますが、面白く当たるマンガを描ける人は少なく、彼らは必ずしも絵がうまい人ばかりではないからです。

今後求められるのは常識にとらわれない発想力

分なりに考え工夫する力、自由な発想力だと思います。

「絵が下手」でも大丈夫！マンガを通じて道は開ける

マンガを1本描くには、ストーリーを構成し、それを絵に描く忍耐力、さらに営業力やコミュニケーション力も必要になってきます。宝塚大学ではこうした複合的な力が身につくよう、現場で活躍する素晴らしい教師陣がいてねいに指導しています。ただし「ここで勉強したら絶対に売れっ子マンガ家になれるか」と聞かれれば、そんなお約束はできません。でもマンガ領域で学んだ学生は、構成力を武器に放送作家やライターになる可能性があります。お芝居のシナリオが得意かもしれません。絵コンテが描けるから広告業界への道もあります。営業もできるからサラリーマンになっても困りません。つまり、マンガを学ぶことで様々なスキルを身につけられるわけです。ですから、「絵が下手で自信がない」という理由だけで、決して宝塚大学をあきらめないでほしいと思いますね。



★市野治美講師 プロフィール
武蔵野美術大学造形学部修士課程卒業。CGアニメクリエイター、絵本作家などを経験後、『ドア・オープン』（角川あすか）で漫画デビュー。代表作「RING」（角川書店）などの少女マンガを筆頭に、学習漫画、商業漫画、エッセイ漫画など広いジャンルで活躍。「MUSK」（ビッグコミックオリジナル）など漫画原作も手がける。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

アニメ制作Ⅱ

専門選択科目
受講学年：2年
担当教員：古瀬登准教授



修正の繰り返しは実際の制作現場と同じ

この授業では、制作チームを組んで、1年間でひとつの作品を完成させることを目標にしています。アイデア発想法から起承転結の構成、マンガ、アニメの手法を学び、絵コンテを描いて作品を仕上げていきます。その中で、企画、制作、プレゼンテーション、ディレクションの一連の流れをつかむことをねらいとしています。

今日の授業では、先日の講評で指摘された箇所を修正しています。作品の背景の不要なものを取り除いたり、登場人物がふり返って話す時間をセリフにそって数秒間伸ばしたり、アニメーションの動きをスムーズにするなどの微調整です。こうした修正は、実際のアニメーション制作会社の現場でもまったく同じです。これを経て初めて、私たちがテレビで見ているような完成したアニメーションになるわけです。

大切なのは技術とコミュニケーション力

アニメーション制作のための技術の習得はもちろん大切です。し

かこの授業で一番問われるのは、意外かもしれませんが、実は人間関係を円滑にする力、つまりコミュニケーション力であるといえます。今回は6〜7人のチームでひとつの作品を制作しましたが、制作過程で意見が対立したとき、みんなの意見をまとめて解決の方向にもっていかれるかどうか？ これまた実社会でも直面する壁であり、この授業ではそうした意味でも鍛えられることになりました。これがうまくいっている作品は、プロの目から見ればすぐわかるものなのです。

どの学生も発想はユニークです。その発想とアイデアを生かしつつ、それを表現できるアニメーションの技術とコミュニケーション能力を培っていくこと。この2つが大切です。

★古瀬登准教授 プロフィール
1955年、東京生まれ。アニメーター。東京デザイナー学院グラフィックデザイン科卒業。「スプーンおばさん」（1983）「うる星やつら」（1984）、「エースをねらえ！2」（1988）、「ルパン三世」TVスペシャル（1989）、「頭文字D」（1998）、「鉄腕アトム」（2001）、「ブラックジャック」（2005）等の作品の作画監督及びキャラクターデザイン担当。

HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

3/23 春のオープンキャンパス



日時：3月23日(日) 13:00～16:00
会場：宝塚大学 新宿キャンパス

特別講演：松本零士教授「少年の日からと
もに大航海を続けるキャプテンハーロック」

その他の主な内容：大学紹介、入試説明・
相談、領域紹介、相談コーナー、保護者
相談会など

AnimeJapan2014 に出展



3月22、23日に東京ビッグサイトで
開催される世界最大級のアニメの祭典
「AnimeJapan2014」に本学がブース出展
いたします。

日時：3月22日(土)～23日(日)
9:00～17:00

会場：東京ビッグサイト

東展示棟 東1～6ホール

入場料：大人 1,500円 / 小学生以下 800円

主催：AnimeJapan 実行委員会



HOT TOPICS

授業紹介

教員紹介

学生紹介

今後の予定

アニメーション領域4年 中込健人さん (都立工芸高等学校出身)



好きな動物や昆虫を描く
それが遊びそのものだった

僕の家はおもちゃやゲームなど
を買ってもらえなかったため、子
どもの頃の家の中の遊びといえ
ばお絵描きでした。チラシやカレ
ンダーの裏に、好きな昆虫や動物
の絵をよく描いて遊んだもので
す。ゲームを持たない僕を気遣っ
てくれる友達と、よく外遊びもし
ました。天気のいい日はみんな
近くのゴミ捨て場に行き、廃材
を使って自由気ままに遊びまし
た。僕はそばに誰かいればずっと
話しかけ、ひとりでもずっとしゃ
べっている子どもでしたが、そ
れは今も同じ。最近、自分が見た
映画やアニメを人に説明している
ときにふと気づきました。僕は
しゃべりながら自分の考えを整理
しているんだな、と。人と話すこ
とは、僕にとっても大切なこ
となんだと感じています。

大学への進学を決めた経緯があり
ます。

大切なのは人とのつながり
宝塚大学で得た人脈は宝物

僕がこの大学に入学したとき
新入生歓迎会があったのですが、
参加者が1年生と2年生だけで
「ちよっと寂しいな」と思いまし
た。そこで僕が2年生になったと
き、3年生と4年生、さらに院生
もお呼びして、大人数の賑やかな
新入生歓迎会を企画しました。た
くさんの先輩方というんな話がで
きて楽しかったし、みんなも楽し
そうだったので、「やってよかつ
た！」と思いました。このときに
知り合った先輩方とは今でも交流
があり、ことあるごとに会って
リアルな仕事の話を聞かせても
らっています。また、宝塚大学の
先生方は、実際に現場で制作して
いるプロ集団なので、指導は現実
的で、その言葉には重みがありま
す。ここで得た人脈は、僕にとっ
て宝物ですね。

経験してきたことは
ひとつも無駄じゃない

就活は4年生の4月くらいから
始めました。何社か受けて少し疲
れてきた頃、あるアニメーション

制作会社が「アクションものが好
きな人」を募集していました。僕
は、少林寺拳法の経験を生かせる
と思い、応募。なんと最終段階ま
で進み、パスすることができまし
た。今まで自分が好きだったこと、
打ち込んできたことは、何ひとつ
無駄にはならないんだと思えまし
た。将来はアニメーション映画の
演出を手がけられたらうれしいで
すね。



作業中の中込さん。